JSCN

The 41st Annual Conference
of the Japanese Society of Cancer Nursing

原点回帰

～がん看護の未来に向けた新たな価値を創造する～

第41回

日本がん看護学会 学術集会

会場
神戸国際展示場 2号館・3号館
神戸国際会議場

学術集会長
平松 貴子
川崎医科大学附属病院
看護部長/がん看護専門看護師

2027年
2月27日(土)▶28日(日)

患者・家族参画プログラム 応募期間
2026年10月15日(木)
～2027年1月5日(火)

大会 HP
https：//plaza.umin.ac.jp/jscn41

運営事務局　〒550-0001　大阪市西区土佐堀1丁目4番8号　日栄ビル703A　あゆみコーポレーション内
TEL：06-6131-6605　　E-mail：jscn41@a-youme.jp

JSCN

日本がん看護学会　患者・家族参画プログラム

　このたび、第41回日本がん看護学会学術集会の患者・家族参画プログラムを開催するにあたり、ご挨拶申し上げます。本学術集会のテーマは「原点回帰～がん看護の未来に向けた新たな価値を創造する～」といたしました。がん看護は、患者さんの希望や苦悩、そして人としての尊厳に深く寄り添う領域です。私たち看護職が日々向き合っているのは、治療や制度の変化だけではなく、皆さま一人ひとりの生き方や価値観、抱えてこられた思いです。看護の原点とは、目の前の人に真摯に向き合い、その方にとって最善のケアを問い続ける姿勢にあります。皆さまのご経験や思いは、この原点を照らし、看護の価値を再確認させてくれる大切な力となります。
　近年、AIや遠隔医療など医療技術は大きく進化しています。こうした技術は生活の質を高める可能性を広げる一方で、「人間らしいケアとは何か」を改めて問い直すきっかけにもなっています。だからこそ看護職には、技術を適切に活かしながら、より深く皆さまに寄り添うケアを実現していく姿勢が求められています。
本学術集会では、看護の原点を見つめ直し、未来へ向けた新たな価値を議論するセッションを設けております。本プログラムが、皆さまの思いを共有し、新たな価値を共に創造する場となりますことを願っております。神戸での学術集会にて皆さまとお会いできることを、心より楽しみにしております。

第41回日本がん看護学会学術集会 学術集会長　平松 貴子

目的

　がん患者・家族と看護師等が、がん看護・医療に関する情報や課題を共有、議論しつつ、共に学び、がん看護・医療や患者・家族支援の発展に貢献する。

参加者募集

- がん体験者（患者さん・ご家族）60名程度
- 参加費　3,000円

おすすめプログラム

オリジナルプログラム

- 看護レンジャー ～その悩み、私たちに任せてください！～
- 知っておきたい！　兵庫県のがん医療・看護の取り組み

第41回日本がん看護学会学術集会の聴講可能プログラム

● 会長講演	原点回帰 ～がん看護の未来に向けた新たな価値を創造する～
● 特別講演１	ナイチンゲールに学ぶ看護のアイデンティティ
● 特別講演２	アートと医療の融合 ～生命（いのち）に向き合うデザイン～
● 教育講演５	グローバルヘルスと看護 ～異なる文化・宗教の理解に向けて～
● 教育講演８	今からでも遅くない！がん患者の妊孕性をめぐる意思決定を支える看護 ー温存する・しない・できない、その選択に寄り添うー
● シンポジウム１	病院から在宅へとつながる移行ケアの価値創造
● シンポジウム２	看護の原点とデジタルテクノロジー～プロローグ～今どうなっとん？
● シンポジウム３	CGA・ACPを『やる』から『活かす』へ 高齢がん患者にとっての最良のアウトカムを支える実践
● シンポジウム４	DNP（Doctor of Nursing Practice）はがん看護の未来をどう変えるのか
● シンポジウム６	看護師が悩む骨転移患者への対応 ー疼痛と骨折リスクのジレンマを読み解くー
● ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ１	がんゲノム医療における意思決定支援を捉えて未来を拡張させる
● ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ２	がんサバイバー支援の源流とセルフアドボカシーを高める新たな取り組み
● ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ４	AYA世代がん体験者支援の新しいかたち：社会とつながるデジタルテクノロジーと看護の役割
● ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ８	看護の原点を大切にする看護職をどう育てるか

社会連携委員会企画

● Nursing Science Café 2027	全国中高生コンテスト　What's 未来の看護？ ～AIにしかできないこと　人間にしかできないこと～
● 市民公開講座2027	がんとお金のはなし

＊諸事情により、予告なく変更することがありますので、ご了承ください

企画・運営：日本がん看護学会　社会連携委員会